

街かど gallery



友達の所へ遊
びに行った時、
おけいこされて
いる水墨画を見
せてもらいまし
た。自分も墨絵
が好きで良いな
と思っていました。
丁度その頃、立花町
働く婦人の家で講座があるとの事。早速
近所の友達と申し込みました。それが今
の中島先生です。すばらしい先生に恵ま
れお手本を載っていますが、まだまだ分
らず自分なりに描いています。「あなた
達の為に先生は居るのよ」と言ってやさ
しく教えて戴きます。先生の手助けで自
分なりの作品が幾つも出来ました。本当
に嬉しく感謝しています。今まで続けて
こられたのも、教室の仲間の皆さんに優
しく応援してもらえからといつもあり
がたく思っています。



立花町白木
久富 カツキ

■立花短歌会
海軍に進んで志願若者の逝
きて六十八年忘れることな
し 中村サチ子
朝もやの出雲大社の本殿に
一步進んで柏手を打つ 田中たつじ
誕生日の孫に進めとはやし
たて歩く姿に一喜一憂 鶴 隆治郎
護衛艦「いずも」の進水に
流れくる軍艦マーチ耳を疑
う 中島 睦美
雨の夜は見果てぬ夢の一里
塚空蟬の声聞くも進めず 松尾ミサキ
■立花町俳句会
南北の戸を開け放つ夏座敷
炎暑にも田の草取りし若き 中村テルヨ

日々 中尾カヲル
夏萩のこぼれて赤く光りを
り 原 宣子
華やかや七夕飾る 道の駅
まほろばと言はれし八女に
梅雨禍の忌 吉泉 守峰
遠き日やおむつ作りし古浴
衣 西島志乃芙
■八女睦句会
西瓜割り力んで的をはずし
けり 堤 呼秋
内股に楚々と町行く白日傘
短パンで猛暑乗り切る八十
路かな 大坪 栄子
蘇る数多の想ひ終戦日 城戸 和子
本物か我が耳鳴りか蟬しく
れ 牛島佐智子
正体のわからぬ虫に刺され

たり 穴見ミキエ
靖国の兄を偲びし終戦日
山口 弘子
■黒木町くすの実句会
娘の名忘れゆく母蟬時雨
風の筋ありて夏草揺れにけ
り 寺田 睦子
寝苦しや猛暑豪雨と便り書
く 東野 蓉子
夏草や水渦の跡を証したる
天変地異なき世のごとく天
の川 吉泉 守峰
身じろがずじつと咲くまで
蓮の花 鍋島 翔山
■上陽町陽泉俳句会
花火の音 バ行五段に活用
す 吉泉 守峰
刀豆の花の涼しき色となる
大坪 延子

鈴虫の幽かな風を連れて来
し 大坪 清香
ポップコーンはじけて白し
天の川 梅野トラノ
送り火にまたの逢瀬を願ひ
つつ 城後 正子
この極暑野菜の悲鳴きこえ
来る 倉ノ下和代
■ひろかわ俳句会
手花火の闇から笑顔こぼれ
けり 原口あつ美
連れだちて徐々にかまびす
蝉の声 御厨とみ子
酷暑日の一点を追ふ球児達
酷暑の話し止まらぬ生御霊
戦争の話し止まらぬ生御霊
黙禱に偲ぶ戦史の残暑かな
水本 辰次
猛暑にもめげず球児のホー
ムラン 山下 次男
田川 義己

今月の山柳



人を恋う
姿に揺れる
秋桜

人待ち顔に、寄り添いな
がらコスモス揺れて、すっ
かり秋の風となった。
乙女の純情の花ことばの
コスモスのパステルカラ
の優しさに癒され、郷愁に
かられる。
コスモスも揺れて
心も秋の色
八女川柳会 安達 昇



本分保育園 さくら組
うめのとくしん

だのしいことがいっぱい

おとうさんとやきゅう
をすることがたのしいよ。
おかあさんとかいものを
することがたのしいよ。
えいりちゃんとしてん
しゃにのることがたのし
いよ。
おじいちゃんときかな
とりをすることがたのし
いよ。
おばあちゃんといえほん
をよむことがたのしいよ。
ほいくえんであそぶこ
ともたのしいよ。
たのしいことをいっぱい
いみつけるよ！

松田久彦さんの卒寿を祝う会



松田久彦さんをご存知でしょうか。八女の職人に惚れ、
八女の工芸・民芸を日本中に紹介したあの松田さんです。
松田さんが八女に来て52年になります。今年11月3日
が90歳の誕生日です。松田さんを敬愛する私たちは、誕
生日に「松田久彦さんの卒寿を祝う会」を計画しました。
趣旨に賛同して、出席してくださる方を募っています。
私たちは壇上に立った松田さんがまだ話を始めないう
ちから、なぜか嬉しくなってしまう。あのぎょろり
とした目玉にひきつけられ、魔術にかかるといでしょう。
松田さんは90歳を前にした今も、元気です。久しぶりに松田節を聞きませんか。
当日は松田さんに「八女に来て52年（仮題）」の題で話をしてもらおう予定です。
松田さんは大正12年、久留米市東町の生まれ。召集され、福岡市で終戦を迎
えています。毛布1枚を持って、久留米に帰ったそうです。昭和23年、夕刊フク
ニチ新聞社の記者になり、サツ回りからスタート。11年間の記者生活のあと、
東京温泉の宣伝部長、伊豆修善寺の温泉旅館の番頭も経験。昭和36年、堀川バ
スに迎えられます。

八女にきた時38歳でした。文化勲章受章の画家、坂本繁二郎さんを訪ね、堀
川バスの車体の色について問答し、やりとりを社内報に紹介しています。
松田さんは、仏壇や提灯、手漉き和紙、久留米緋、石灯籠などの工房を訪ね、
多くの職人と会話しています。家人と仲買人くらいしか話す相手がいなかった多
くの職人は、ずけずけとモノを言う松田さんに最初は戸惑い、後には、嘘のない
松田さんの来訪を心待ちにしていたようです。

松田さんは職人との出会いを楽しむ一方で、八女の自然を愛し、街並みを愛し、
消えゆく伝統の味を惜しみ、私たちに「生きる」意味を考えさせてくれました。
職人との交流の模様や、八女の自然・伝統を見直す視点は、松田さんの著書（「物々
好感」「きもんぬすど」「八女、仕事着の道」「八女を歩く1～3集」など）に詳し
く書かれています。
私たちは今改めて、「松田さん、よくぞ八女に来てくれました」という思いで
います。

伝統的工芸の各組合の理事長、八女伝統工芸館や八女ふるさと塾の関係の皆さん、
産業界の皆さんらに賛同していただきました。多くの皆さんが、「松田さんと久
しぶりにしゃべろう」と集まってくださることを願っています。

「祝う会」は11月3日午後4時から、「いわ井」（八女市津ノ江）で行います。
会費5,000円。卒寿を期してまとめた「松田さん・八女を歩く」（福原信彬著）
をお配りします。

松田久彦さんの卒寿を祝う会代表 山口 昇（八女伝統工芸館理事長）
お問い合わせ・申し込みは 松尾和紙工房（☎24-3876）（株東兄弟（☎24-2111）

矢部川源流・杣の里の四季 ②4
ヤクシソウ（薬師草）[キク科]

ヤクシソウは、秋（10～11月）日
当たりの良い山野で良く分枝した花
茎に黄色い小花を集合して咲かせる
キク科の野草（二年草）である。

矢部村では釈迦岳登山道（車道）の
よく陽が当たる南に面した道端に、
上を向いてこぼれるように咲いた黄
色の花を観察することが出来る。葉
は互生してつき、基部が茎を抱いて
ついている。この葉の付き方が薬師
如来の光背に似ていということから
薬師草と名がついたといわれている。

松尾 重根（黒木町）

